

シンポジウムの概要

開会

第1部 オーラルセッション

- 1 **農林水産省生物多様性戦略の概要** 大臣官房環境バイオマス政策課
平成19年7月、農林水産省では生物多様性保全を重視した農林水産施策を推進するため、その基本的考え方、関連施策などをまとめた「農林水産省生物多様性戦略」を策定しました。

この内容は、同年11月に閣議決定された「生物多様性国家戦略」にも盛り込まれたところですが、その概要をわかりやすく説明します。

- 2 **世界の情勢と我が国のプロジェクト** 岡山大学名誉教授 中筋房夫
ヨーロッパでは、農業に有用な生物多様性（functional biodiversity）は持続的な農業を実現するための重要な資源として認識されています。

技術指導の現場では、農業に有用な生物多様性を活用した農業における具体的な指標、評価方法とともに、それらの指標を維持・向上させる栽培管理技術がマニュアル化され利用されており、多大な農業環境予算に見合う生物多様性の維持・向上の効果について検証する政策評価にも活用されています。

一方、日本では、農法・農業技術の違いで生物種とその個体数がどの程度変化するか等未調査の部分が多く、現在まで指標の開発に結びついていません。

このため、20年度から開始した研究プロジェクトについて、その目標及び行程等についてわかりやすく説明します。

- 3 **研究報告：我が国で進めている指標の選抜状況**

静岡県農林技術研究所 増井伸一

農法・農業技術別に、「ほ場単位」と「集落単位」で生物種の動態を調査し、個体数が多く変動も大である生物種（指標）を選抜しています。

指標は、現場レベルで利用可能なものを目指しており、現在の進捗状況をわかりやすく説明します。

この成果は、専門家でもわかりにくかった生物多様性の評価を、客観的でわかりやすいものとして国民のみなさんに提示できるものと期待しています。

- 4 **話題提供：ヨーロッパで進む農業に有用な生物多様性の管理**

プロジェクト研究海外調査担当 （社）農林水産技術情報協会

ヨーロッパでは、研究サイドで作られた指標、評価手法及び栽培管理技術がマニュアル化され、生物多様性を重視した農業を実施する農業者に利用されています。

これらの実践は、直接支払いの要件になるなど政策にも取り入れられており、その状況についてわかりやすく説明します。

第2部 ポスターセッション

全国で実施するプロジェクト課題をポスター展示し、担当者及び参加者で意見交換を行います。